

2000年11月2日

通院ボランティア通信

【ゆどばたNo.9】

全腎協事務局作成

★ 交流会に参加予定のみなさまへ ★

一昨日は、12月に行われる通院介護支援事業交流会の申込みの締め切り日でした。現在、実施団体20ヶ所と全腎協加盟組織13県から、約50名のお申込みが来ています。いただいた申込み用紙は当日資料として配付しますが、その他にも役に立つ資料や書籍をご紹介します予定ですので、「こんな資料が欲しい」というリクエストがありましたら、全腎協事務局までご連絡下さい(^-^)/。

今回は初の試みですので、参加者の皆さんが知り合い、自由に意見交換していただくことを中心にプログラムを立てました。1泊2日という短い間ですが、聞きたいこと・言いたいことを持ち寄って、有意義な時間を過ごしていただければと思います。

★ 団体紹介 ★

今号は、京都府福知山市です。BGM「運転ボランティア」は京都腎臓病患者協議会の会長が運営のアドバイザーをしています。事務局や実際の送迎には患者が関わっていませんが、通院問題に応える一つの形として、都道府県組織の方々にも参考にさせていただけるのではないのでしょうか。

BGM 運転ボランティア

<経緯>

福知山市は京都市の北部に位置し、人口6万9千余人。交通の要衝であるところから北近畿の中核都市として発展してきた都市です。

福知山腎友会の会員は90人で、市内の医療法人京都ルネス病院と市立福知山病院のほか、隣接する綾部市の綾部ルネス病院、舞鶴市の舞鶴共済病院で透析治療を受けていますが、ご多分に漏れず要介護患者が多くなり、通院送迎支援を希望する患者が増えてきました。

福知山市



おいでやあ！京都府

震災・原油流出事故から運転ボランティアへ

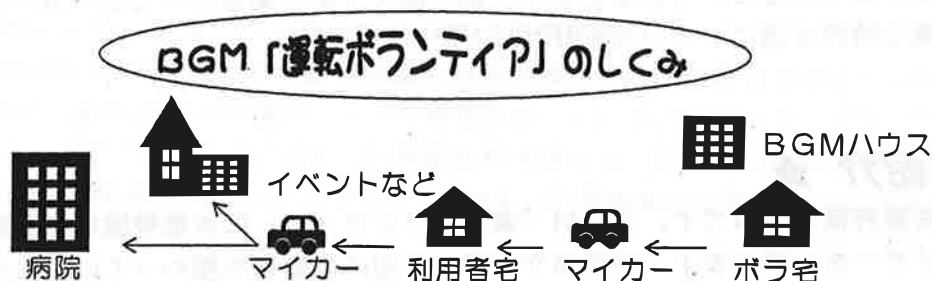
各病院のソーシャルワーカーとも連絡を取り協議していたところへ、神戸の震災やソ連船の日本海沿岸への重油流出事故などにボランティアとして出かけ、成果を上げられた「自分おこしまちづくりサークルBGM (Broken・Genration・Member)」が、次は障害者や高齢者の社会参加にお手伝いしたいとまず透析患者の病院への通院送迎問題を取り上げ、福知山腎友会に協力方の申し出がありました。平成9年秋頃のことです。早速「BGM」運転ボランティアが結成され、平成10年4月からの実施を目指して、腎友会も顧問コーディネーターとして数度にわたる会合に出席、規約の作成から運転記録表、利用会員予約表、運転会員報告書、利用者のしおりとして手続きの申込み方や利用にあたっての取り決めの作成に関与してきました。同時に運転会員、利用会員の募集にもつとめ、発足時は運転会員28人、利用会員9人で、うち透析患者は6人が病院までの通院送迎を行っていただいていたいました。

隣接市町でも社協が送迎をスタート

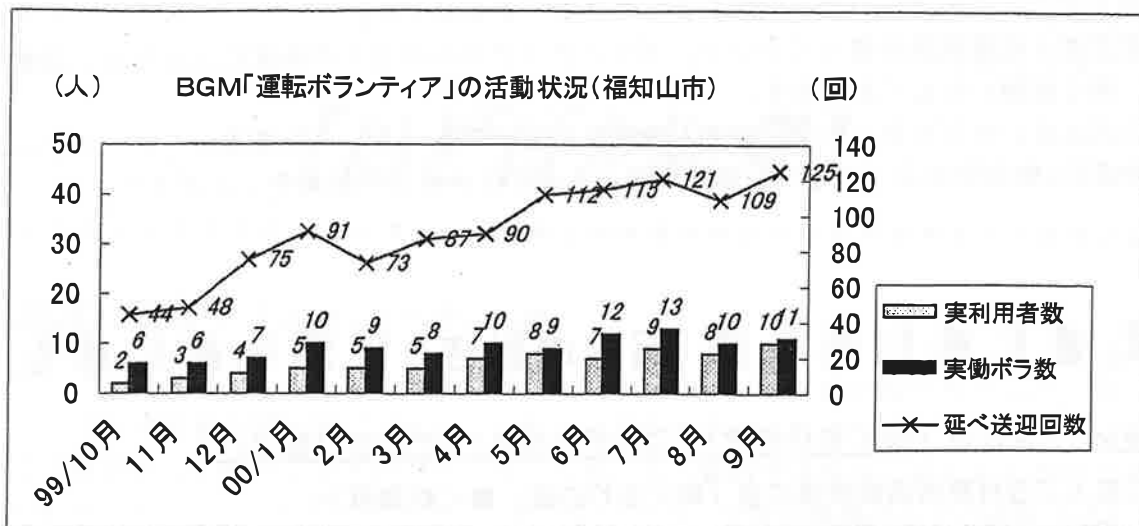
ところが、隣接の綾部市をはじめ大江、夜久野、三和野各町が行政から事業委託を受け、各社会福祉協議会が次々に透析患者の通院送迎事業を行うようになって、現在ではBGMの運転ボランティアにお世話になっているのは4人になっています。しかし、透析患者の高齢化とともに通院送迎を希望する患者が増えてくるのは間違いなく、福知山市社会福祉協議会でも平成12年度に市の事業委託を受けて、障害者や高齢者の通院支援事業を実施しております。社協は1台の車を準備していますが、BGMは運転会員自らの車で移送を行っており、次は在宅に向け「生活支援サービス」を検討中です。

NPO「福知山BGM福祉サービス」として

福知山腎友会としてはBGM運転ボランティアがNPO法人の認可を取り、理事の一員に参加している以上、BGM運転ボランティアに市の事業委託を取りつけ、今後とも支援協力していくつもりです。(京腎協会長・福知山腎友会会長 大槻正治郎さん)



所在地	京都府福知山市
実施団体名	自分おこし町づくりサークル「BGM運転ボランティア」
運営母体	NPO「福知山BGM福祉サービス」
発足時期	1998年4月1日(NPO法人認証は2000年8月)
サービス内容	ボランティアによる通院援助、社会参加を目的とした送迎
送迎対象地域	福知山市及びその周辺
利用対象者	市内に通院する透析患者、近隣市町村在住の高齢者・障害者
利用者負担	年会費／5,000円(面接費1000円、交通事故傷害保険料600円) 利用寄付／2.5kmまで600円、以後3km毎に150円追加
ボランティア構成	退職者、看護婦、会社員(消防署、自動車学校教員等)、主婦(子育て中)
利用者構成	透析患者、車いす利用者、その他
スタッフ(コーディネーター)	事務局1名、利用面接は会長が行う
事務所	アパートの一室(BGMハウス)
車両	マイカー(うち2台はリフト付き)
保険	社協の交通事故傷害保険(NPO保険に加入予定)
財源	利用者の年会費、利用寄付、自主活動(フリーマーケット等)、寄付金
支出(経費)	ボランティアへのガソリン代、家賃、光熱費、備品維持費、通信費、人件費等
研修会など	定例会、(利用者)交流会、介助講習会、医療(移送)講習会
協力団体	市社協、福知山腎友会



★『つぶやきコーナー』★

岡 睦子 おか むつこ (「ほほえみ佐世保」・コーディネーター／佐世保市)

「ほほえみ佐世保」で、コーディネーターをしております。

送迎サービスは7/4からスタートしましたが、なかなか利用者が増えないので、コーディネートするにも、しょうがありません。これからどんどん増えてほしいと思います。ボランティアの方も少ないので、募集のチラシや、新聞関係やTV等にも載せたのですが、反応がありません。佐世保はボランティア精神のある方が少ないのか？ そうは思いたくないのですが…。

今、事務所新聞づくりに取り組んでいるところですが、なかなかできずしております。パソコンでしようと思っっているのですが、今勉強を始めたところで、これを使いこなすにはまだかかりそうです。皆さん、パソコンは慣れて使ってますか？ 勉強するのが増えました、この年になっても…。

まだまだ勉強です。

(これのせるのですか…こまりました…ちょっと恥ずかしいのですが。)



山田 峯一 やまだ みねいち (「ぬくもりの会」・送迎ボランティア／川口町)

12月になると、降雪が見られ送迎時に家の玄関まで車をつけることができず、30メートルくらいの間をどのようにして家まで届けたらよいか。

3名の送迎者のうち2名は、2時～2時半に透析が完了、1名は4時に終わるまで2～2.5時間待たねばならず、2名の人より不平が出ている。

岩本 美津枝 いわもと みつえ (「たいせつ旭川」・事務局／旭川市)

旭川地方腎友会においても、この通院支援事業ができないだろうか？と提案したのは、平成10年5月でした。アンケートによる透析患者の通院状況を調査したものの事業をはじめするには事務所も無し、道路交通法は、事故の問題は、と次々と難問が出てきました。

その折「通院送迎活動ガイド」が全腎協より発行されましたから、教科書にさせていただき、準備委員会を結成しまして、丸2年間取り組みを検討しました。その間に北海道においても釧路、室蘭腎友会と2ヶ所が事業を開始しました。

なおも、多くの不安はありましたが、12年8月20日ようやく設立総会を開催…旭川地方腎友

会通院支援センター『たいせつ旭川』としてスタートしました。

自家用車と任意保険を使ってという、ボランティアさんの全くの善意に支えられ、活動できることに、深く感謝いたしております。

お力添えをいただきました関係機関、資料をお寄せ下さいました板橋通院サポートセンター「さくらの会」、釧路腎友会「さわやか通院介護」さんには、心よりお礼申し上げます。

最近の動き

new face 「ぬくもりの会」「コスモスの会」「たいせつ旭川」

■川口町人工透析患者通院支援の会「ぬくもりの会」■<新潟県>

7/1発足。小千谷総合病院にマイカーボランティアが送迎。母体は「ラ・クーダ」と同じ小千谷腎友会。こちらは川口町在住の患者を対象に送迎しています。

■川腎協通院サポートサービス「コスモスの会」■<神奈川県>

8/6発足。母体はNPO川腎協(川崎地域腎臓病連絡協議会)。NPO設立当初から、介護を必要とする透析患者のために、通院送迎や介護サービスの構想を練っていました。マイカーボランティアが市内病院・施設へドア・ツー・ドアで送迎しています。介護保険利用者には、別組織である「NPOおおすみ」と提携し、ヘルパー派遣と通院送迎をセットにして行っています。介護保険を利用していなくても、ボランティア送迎は利用可。

■通院支援センター「たいせつ旭川」■<北海道>

8/20発足。「たいせつ旭川」は“大雪山連峰”“大切に…”を意識してネーミングしました。マイカーボランティアが市内在住・通院の透析患者をドア・ツー・ドアで送迎しています。母体は、旭川地方腎友会。

ホームページに5団体が『LINK』しました

全腎協ホームページの「LINK」に、通院送迎事業を行っている5団体のホームページを載せました。北九州「さわやか」のホームページでは機関誌に載った記事が見られるようになっているほか、メールで質問できる団体もあります。

関連する団体のURLも添えましたので、アクセスする環境をお持ちの方は、ぜひ一度ご覧下さい(資料1)。協力を得られる団体や利用できるサービスがあるかもしれませんよ。

使える一冊『移送サービスモデル研修体系試案』

ボランティアといっても車の運行は安全が第一です。我流になってしまいがちな送迎サービスですが、運転ボランティアにもコーディネーターにも「安全に対する心構え」やある程度の技術が求められるのではないのでしょうか。

本書は、東京都社協と東京ハンディキャブ連絡会のメンバーで構成される検討プロジェクトが作成した「研修のモデル案」です。12月の交流会でもご案内しますが、すぐに購入したい方は東京都社会福祉協議会総務部図書係(03-3268-7171)までお問い合わせ下さい(資料2)。

福祉車両はいかがですか？

車両メーカーのマツダから、福祉車両の資料とアンケート用紙が送付されましたので、実施団体のみなさまにコピーを同封しました。福祉車両は購入より、助成団体の寄贈事業にチャレンジすることをオススメしていますが、福祉車両に関心や要望をお持ちの方は、アンケートに答えてみてはいかがでしょうか。カタログ請求もできます。